

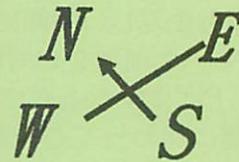
藤沢

2014年5月1日

第240号

エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議
(略称) 藤沢エコネット



240号記念特集号

- ・皆さまからの抱負や思いで、あいさつ
- ・福島支援を続けて ・アーサーピナード氏講演

http://members3.jcom.home.ne.jp/fujisawa_econet/
事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳
☎ / FAX 0466-87-4922

240号記念号に寄せて

1994年春に誕生した藤沢エコネット。代表は、今は亡き井之川平等であった。当時市内では様々な環境団体（ごみ問題、大気汚染NO₂測定、谷戸の保全、石けん推進等）が活発に活動していた。特に大量消費、大量廃棄から出るごみ問題は深刻になり、ごみ問題を考える集会をきっかけに、藤沢エコネットは発足した。

その性格は、ゆるやかな情報交換と学習の場そして共通する課題での共同行動で、「人間が住むにふさわしい環境都市藤沢の実現」を目的に藤沢環境運動市民連絡会議（略称藤沢エコネット）と称した。

藤沢エコネットニュースが5月準備号から発行され、今月が240号、20年間休まず月刊発行を続けている。感無量である。情報交換というコンセプトで市内の環境問題を取り上げると限りなく課題は続いている。なるべく様々な分野の問題をと心がけるのだが、実際には大きな環境問題が次々と起こり、その都度学習会を重ねて、共同行動のきっかけをつくることになった。

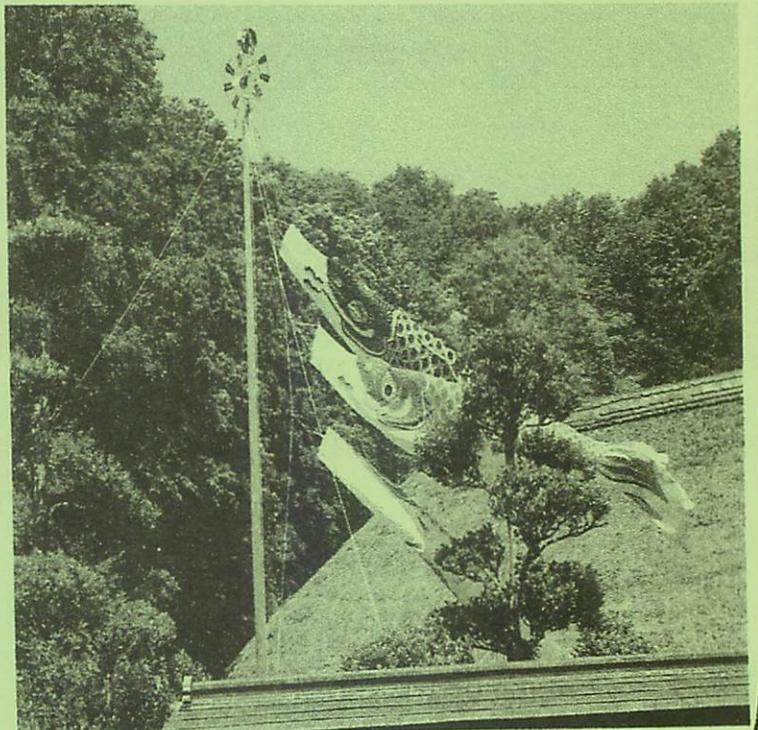
荏原ダイオキシン問題やごみ有料化問題、武田薬品バイオハザード問題、原発事故による放射能汚染問題などである。一つ一つ市内全域の問題となり、様々な人たちと共同行動をすることになった。

出会いが生まれ、別れがあり、意見の違いもあったが、目的は同じ一環境を良くするために一と口角泡を飛ばしながらも、歩調を合わせて歩んできた。

その大きな環境問題に深く関わっていただいた方々や、藤沢の環境保全のために長年活動していらっしゃる方々に240号記念ということで書いていただいた。今後も藤沢エコネットニュースを通じてゆるやかな情報交換をしていきたいと願う。

環境都市藤沢の実現は遠い。気候変動を感じ始めたこの頃、地球温暖化問題に本格的に取り組む必要に迫られている。

藤沢エコネット事務局長 青柳節子



「藤沢エコネットニュース」

創刊20周年を迎えて

藤沢市環境部長 金子 正彦

風にそよぐ木々の緑もまぶしい季節に「藤沢エコネットニュース」が記念すべき創刊20周年を迎えられたことに、お祝い申し上げますとともに、長きにわたりニュースの編集作業に関わってこられた関係者の方々に、心から敬意を表します。

環境問題は、実にさまざまな分野があり、また、時代とともに大きく変化をしております。藤沢市では、平成25年度に「藤沢市環境基本計画」と「藤沢市地球温暖化対策実行計画」の見直しを実施しました。主な見直しの内容は、福島第一原子力発電所による放射能や微小粒子状物質(PM2.5)への対応、東日本大震災以降のエネルギー問題、地球温暖化対策、緑地や里山の保全など多岐にわたっており、これらの課題解決のためには、市民、事業者など多くの方々と行政が連携した施策を実施していく必要があると実感しております。

このような状況の中、環境関連の情報を発信する「藤沢エコネットニュース」が20年もの間、多くの方々に親しまれてきたことは、内容の的確さと市民の皆さまの環境への関心の高さを示すものであり、市民の皆さまと協力して環境行政を進めていく上で、大変意義深いものと感じております。

「藤沢エコネット」ならびに「藤沢エコネットニュース」に携わっておられる皆さまが、今後も時代の変化に対応したホットな情報を提供してくださるものと期待しております。

藤沢エコネットに期待すること

川崎 健

エコネットニュース240号おめでとうございます。20年にわたっての藤沢の環境運動の中心になっての継続的な活動は、とても大変なことだったと思います。

近く公表されるIPCCのレポートにも示されるように、2050年までにCO2の排出をゼロにしなければ、地球の未来はありません。藤沢市の環境施策にとってもっとも大切なことは、「地産地消のエネルギー需給体制」を創り上げ、エネルギー先進都市になることです。

北海道下川町は、町当局のリードによって、森林資源の活用によるエネルギー自給体制に向かって着実に前進しています。

藤沢の自然エネルギー源は、太陽光と風力です。とくに風力を利用した洋上発電です。藤沢は、相模湾に面した海洋都市です。風力は無限です。自然エネルギー100%に向かって着実に進んでいるデンマークの中心エネルギー源は、風力です。

藤沢市が早速にとりかからなければならないのは、2050年に向けて「地産地消エネルギー需給体制」を達成するための、理念と工程表づくりです。ゆくゆくは行政組織の中に「エネルギー部」を設ける必要がありますが、そのために、市民を加えた「地産地消エネルギー委員会」を作って検討を開始する必要があります。藤沢エコネットは、そのための起動力になる必要があります。本年9月の市議会へ向けて、「地産地消エネルギー需給体制構築へ向けて」の陳情を提出したらどうでしょうか。そのためには、エコネットの中にワーキンググループを設けて、陳情の準備をする必要があります。説得力のある文書をつくりましょう。さらに、市当局および市議会各会派の理解を得るための努力も大切です。世論形成のために、市民へのアピールも必要でしょう。

下川町の現地視察も行いましょう。

地球環境を守るために、具体的な行動を起こしましょう。

ごみ研究会から

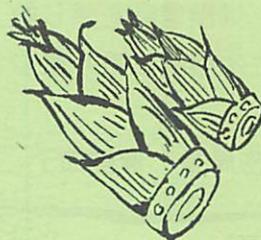
ゴミ有料化裁判への20年

諏訪謙司

1992年8月、故宮地淳子市議から「ごみ問題研究会シンポ」への参加依頼がありました。生協神奈川県連の井之川さん、湘南民商の渋谷さん、新婦人の栗原さんなどもパネラーとして同席され、シンポの趣旨は、家庭ごみを減量し燃やさないで、大地に還元する方法などを考えようというものでした。以前農協県連にいた私を含め、生産者・消費者・流通業者などの意見を求めたものでした。このときを契機として、エコネット運動へと発展しました。

その後、藤沢市ごみ問題研究会が結成され、市内の環境団体と連携、環境問題全般まで広げての運動を展開しました。1994年3月、藤沢環境運動市民連絡会議(藤沢エコネット)が発足しました。ごみの燃焼によるダイオキシン被害が市内各地で発生した事もあり、ごみを燃やさない、分別減量化すること、ぼかし等活用して生ごみを堆肥化することを、市と市民が共同して進めていきました。藤沢市は、国内有数の環境模範都市といわれるようになっていました。

2006年2月、藤沢市長はゴミ有料化の具体的金額を提示しました。今まで、市と一体となって、ごみ減量に協力していた市民は怒り、藤沢ゴミ有料化問題市民連絡会を結成。「ゴミ有料化に反対する請願」署名運動を全自治会会長・団体に呼びかけ、市内の100余自治会が挙って自主的に反対署名を集め、その数は、42,000余に達しました。私の居住地長後でも



10の自治会長が署名を集め私宅に連絡していただいたことには感激したものです。しかし、議会は請願を取りあげず、市長は有料化を実施しました。

請願共同代表は、「家庭ゴミの有料化」が違法であり、無効であることの確認を求める訴状を2007年3月横浜地裁に提出し、原告は、渡辺、小林、諏訪の当事者訴訟、弁護士は依頼しませんでした。

09年、横浜地裁は原告の請求棄却。東京高裁へ控訴、棄却。最高裁に上告。11年3月、上告棄却決定。

最高裁決定は、ゴミの有料化は、地方自治法の立法上裁量の問題だと言外に言っているものとも解釈できます。ならば、藤沢市ゴミ有料化条例改廃運動の再構築を。

最近、鎌倉市長は、家庭系ゴミの有料化条例改定議案を取り下げたということです。藤沢市共産党市議団はゴミ袋の値段を無料に、当面は半額にと予算要望しています。

HP「藤沢市ごみ有料化裁判」

<http://fujisawagomiyuryokasaiban.web.fc2.com/top.html> を閲覧していただきたい・

石けんを使おう！

手塚弘子

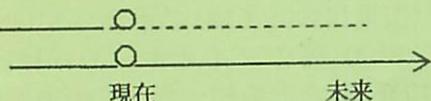
エコネットニュースにはいつもそれぞれの分野で活動される方々の、人として生きる大切な真摯な思いや知識があふれています。

教えられることや知らされることも多く色々と学ぶことができます。ありがとうございます！

藤沢環境運動市民連絡会議の力強さに圧倒されながら感謝しております。石けん推進の活動も〈目指す方向は同じ〉ということで、これからもよろしくお願い致します。

20年前の私は…とふり返ってみると、“石けんを使おうと呼びかけて、もう10年何をしてきたんだろう、何をしているんだろう、何をしていたらいいんだろう”と悩んだ時があり、それを解決する努力をしているときでありました。

「石けん推進だより」を発行し、市民へのアピールを呼びかけました。が同時に活動の思いを「子どものために…」を「子どもとともに」と変えたことが、生き生きとした躍動感になりました。子どもたちといのちが重なっている時、共に現実を見つめ、そして未来を真剣に考える、正しく判断できる大人に成長したならば、地球をとりまく環境問題の解決に大きな力を発揮してくれるでしょう。



藤沢市では1986年から全学校給食施設で、食器具、調理機器、床洗浄に石けんを使用しています。ここに至るまでには、いろいろと試行錯誤や話し合いがあり

〈藤沢エコネットニュース240号〉

〈低炭素都市ふじさわをめざして〉

ました。子どもの健康を守るために石けん使用推進となったことを常に声を出し伝えてほしいものです。

この石けん使用は環境先進都市として大いに認められている事なんですから、それより何よりも「あなたたちを守るために合成洗剤を使うことを止めて、石けんを使っているのよ」と知った子は、命を生み、守り育てる時が来た時、きっと安全安心な石けんを選ぶでしょう。



藤沢ゴミ裁判をふり返って

上野武雄

2007年3月、藤沢市民の渡辺弘明、小林麻須男、諏訪謙司の3氏がゴミ有料化反対の訴状を提出しゴミ裁判が始まりました。

私は、この裁判を支援する会の一員として、第1回から第14回の結審まで足かけ3年間にわたり、全回を傍聴しました。

3氏が弁護士も立てず、たいへんチームワーク良く論点を明快に述べる姿は、私たち傍聴者にとり、たいへん頼もしく見えました。また傍聴者の数は毎回20人を下らず、南は鶴沼から北は長後にと全市域にわたっていました。裁判終了後には毎回、その日の争点について学習をしました。また、ちょうど昼時の帰りになるので、有志で中華街で食事を共にしました。

その中には日本の環境学の権威、熊本一規氏（明治学院大学教授）が居られることもあり、よく言葉を交わしました。

しかしながら、横浜地裁における結果は、勝利を得るに至らず“原告の請求は却下”という結論でした。

やはり裁判官は行政の不利となるような結論は出せない！という、残念な思いでいっぱいでした。後の東京高裁や最高裁でも3氏の訴状は取り上げてもらえませんでした。この裁判闘争を通じて、私たちの主張「税金を納めているのに更にゴミ処理にお金を取るのは間違いだ」の主張は、市民の間に自然と浸透していきました。それが全回の市長選挙に大きく影響したと考えております。

大気汚染測定を続けて

藤沢の空気を考える会 澤野井道子

「藤沢エコネット」創立より2年ほど前から活動が始まっていた「藤沢の空気を考える会」はそれぞれの団体で関心のある者だけが測定した値にビックリしたり、心を痛めるだけで発表の手段もないし、ましてどのように行政に働きかけていくのかわかりませんでした。

公害のひどかった川崎市を中心に「大気汚染かなが

武田問題と藤沢エコネット

小林麻須男

わ連絡会」があり、年に1回、神奈川県各地で測定を行っている団体が集まり発表・話し合いを行なっていることを知り参加、工業地帯からだんだんにベトナムへ汚染が広がってきていることを実感しました。

このような時期に「エコネットー藤沢環境運動市民連絡会議」の呼びかけがあり参加することになりました。

大気中の二酸化窒素（NO₂）は工場、自動車、家庭の暖房器から多くが排出されます。工場の公害対策は進みましたが、自動車からの排ガス規制はなかなか進みませんでした。交通量の多い467号線・国道1号線・藤沢厚木線などの幹線道路沿いのNO₂の値が高く、特に藤沢橋の渋滞がひどく測定結果をぜひ多くの方にお知らせしたいと思いましたが、その唯一の手段がエコネットニュースでした。「エコネット」や「環境フェア」を通して環境に関心を持ってもらえる方々に藤沢の大気汚染の状況を知り関心を持っていただき、市環境保全課とも話し合いの機会を作りました。その結果、測定局を増やす、PM2.5測定機を設置するなどの結果が出て、国の環境基準をクリア出来ているのも「藤沢エコネット」と通じての活動があったればこそと思います。

私どもの周りの大気環境については、藤沢市の環境保全課で管理・測定していますが、環境基準も測定地点の数も、健康的な大気環境を求める市民の要求を満たしていません。国の環境基準は1978年に“0.02ppm”以下から“0.04ppm~0.06ppm以内”にゆるめられたままです。藤沢市の測定局も5ヶ所（市役所、藤沢橋自動車排気ガス測定局、湘南台文化センター、明治公民館、御所見小学校）ありますが、汚染のひどい城南や用田の定地測定がされていません。

これを補う活動として、また市民に大気環境に関心を持ってもらい、環境行政の改善を求めていくためにも市民の手による測定運動は意味があるのです。

ここ2、3年はNO₂濃度はあまり変化はありませんが、児童・生徒のぜん息罹患率は増加しています。

原因は住環境の変化・ダニなど複雑に影響しているといわれますが、NO₂のみならず、タイヤの磨耗による粉塵など、SPMやPM2.5が新たな問題として考えられます。

市民に大気環境により関心を持ってもらい、環境行政の改善を求めて、市民の手による測定運動を粘り強く続けていく必要があると思っています。



平成20年、武田薬品から村岡の旧アリナミン工場跡地に、巨大なバイオ・遺伝子組み換え研究所を建設するとの発表があり、翌21年に神奈川県環境アセスメントに、藤沢エコネットからも意見を提出したが、当会の取り組みのはじまりです。

県のパブリックコメントには、ほとんどの人から湘南の人口密集地にバイオ研究所を建設するのは反対であるとの意見が出されました。しかし、1回の公聴会と1回の武田の説明会だけで住民の意見を聞くのはおしまいだとの県や武田の対応に住民の怒りが爆発し、藤沢エコネットの呼びかけで平成21年7月、武田問題対策連絡会が結成されました。武田問題対策連絡会には近隣の住民や藤沢・鎌倉の市民団体、環境団体が参加しました。

その後、武田問題対策連絡会の呼びかけで、3回に渡る住民対話集会を武田と藤沢・鎌倉両市に開催させ、また、公害審査委員会への調停の申し入れ、横浜地裁に対し武田研究所排水の藤沢大清水浄化センターへの受け入れ中止の裁判等を行いました。いずれも住民の申し立てを受け入れさせることはできませんでした。しかし、近隣住民が強く反対していた実験動物の焼却炉については、武田に研究所での焼却は止めさせるという成果を上げることができました。

平成23年、住民の反対を押し切り研究所は竣工し稼働を始めましたが、稼働後1年も経たないその年の11月にバイオ排水の漏洩事故が起こり、事故原因の究明と住民参加の安全委員会設置を求めて運動を続けてきましたが武田の不誠実な対応によって実現できませんでした。しかし、この事件は武田のバイオ研究所の危険性を改めて浮き彫りにすることとなりました。

この間、藤沢エコネットは、武田問題について武田問題対策連絡会の結成を呼びかけ、また、会の代表、事務局長の役職を会員が担うなど、全力を挙げて運動を支えてきました。今後とも、武田湘南研究所のバイオ公害防止に向けて取り組みを続ける決意です。

荏原ダイオキシン事件問題

宮地俊作

2000年4月1日、市民説明会に荏原製作所藤沢工場の排水溝（引地川の高名橋）の水から8100pg-TEQ/L（基準値の8100倍のダイオキシンが検出された（3/24 神奈川新聞））ことを知った多くの市民が詰めかけていました。



れ、国民の方を向いて仕事をしていると感じました。県・市と足並みを揃えた藤沢市民の活動が全国に大きな影響を与えたのではないのでしょうか。

藤沢市は、以前からダイオキシン類を測定する中でついに高名橋の稲荷雨水幹線出口の上下で極端に値が異なることから、荏原藤沢工場が汚染源であることを突き止めました。その調査を実施し、データ解析をした藤沢市環境保全課は大学の研究機関にも劣らぬ優れた行動力と分析力のある専門職がいて、動かぬ証拠をつかみました。

そして、市民8団体で「荏原ダイオキシン問題市民対策会議」が結成され、エコネットが事務局を引き受け、度々、学習会や市民集会を開いていました。これらを基に、藤沢市、神奈川県、環境省と話し合いを重ね、それぞれに要望書を提出しました。ダイオキシン問題の全国的な取り組みが高まる中で、底質基準が新たに設定されました。

これらの取り組みの中で、心に残っているのは、市民の声を受けて荏原製作所に対し厳しく対処した藤沢市環境部の方々、塩崎部長の毅然とした姿勢でありました。また、県環境部の方々とは現地調査に入るに当たり、藤沢市と共に市民も立ち会いを求められ同行しました。生物調査では、魚類は漁業者が捕獲し、ムラサキガイやアメリカザリガニ採集を一緒に行いました。そして、サーファーたちがムラサキガイなど水生生物のダイオキシン調査に取り組み、市民的な関心は一層拡がりました。この調査や血液ダイオキシン調査を共に取り組み、「環境一本！！」で県議選に挑んだ塩坂源一郎氏、私たちに直接取材し国会で「荏原ダイオキシン問題」を取り上げた阿部知子氏、県議会陳情で相談に乗ってくれた番場定孝氏(当時県議会議長)を忘れることができません。

しかし、海老根市長になって姿勢が大きく後退しました。マニフェストを振りかざし、これまで市民と共に培ってきた私たちとの財産は簡単に投げ捨てられてしまいました。

荏原ダイオキシン問題で、市民たちは住民の安全に責任を持つ藤沢市・県と共に、先進的な役割を果たしてきました。

(1)全国的なダイオキシン類調査は一級河川を中心であったが、厚木基地周辺焼却炉のダイオキシン問題で引地川の汚染が心配され、藤沢市は2級河川である引地川のダイオキシン類調査に加わり、このことがなかったら荏原の誤接続はずっと見逃されたままになっていたと考えられます。

(2)藤沢市は周辺および血中ダイオキシン類の調査・分析費用等を荏原に請求したことです。神奈川県は、荏原には請求しませんでした。このことは、事故原因とその検査体制の不備についての責任の所在が曖昧なことと無関係ではないと考えています。

(3)環境省がダイオキシンの底質基準を決めるに当たって、神奈川県・藤沢市と市民の連携した取り組みが大きく影響を与えたと考えています。

環境省に要請行動に行った時、担当職員から底質基準決定に時間がかかって申し訳なかったと言わ

ふくしまっ子リフレッシュ in 湘南

日々 遙

あの忌まわしい3.11東日本大震災と福島原発事故は日本国中を震撼させ、3年経った今も、これからも癒えない重みを背負って生きることになりました。

藤沢エコネットはちょうど「ニュース発行200号記念」として2011年1月に記念レセプションを行い、各界から地球温暖化対策や自然保護、ごみ問題など環境をめぐることを共有し「人間が住むふさわしい環境都市ふじさわ」をめざしての情報提供にと心をひとつにした時でした。それからわずか2ヶ月後にそのあつてはならない事故が起きました。

私たちは直ちに学習会を開催し、原発事故とは、放射能とは、被爆の影響、など放射能関連の学習会を開き勉強しました。子育て中の若い母親も人ごとではなく関心を持って参加し会場があふれるほどでした。

また、市議会では放射能関連の陳情が11件だされ、その内9件が了承されました。子どもの命に関わることで学校給食の食材を検査することや、校庭の土を撤去してほしいとの願いでした。

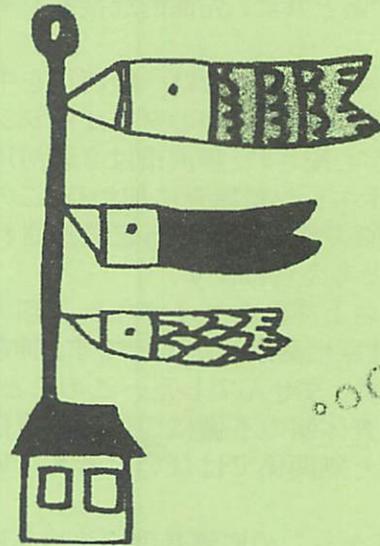
藤沢エコネットが署名860筆を添えて「原子力発電から撤退を求める意見書の提出を求めることについての請願」は12年3月議会で採択され、国へ意見書が出されたことは画期的でした。

さて、福島では…と思いをはしらせ、毎日を外で走り回ることもできない子どもたち…。何か役に立ちたいとの願いは自然に出されました。2012年夏休みに福島の子どもたちを湘南でリフレッシュしてもらうための準備に立ち上がりました。情報に詳しい会員がいたからでした。「福島の子どもたちとともに・湘南の会」を発足させ、わずか2ヶ月で実施となりました。

放射能の影響を受けやすい小さな子どもとその保護者を湘南に招待しました。幸い、「かながわ女性センター」が宿泊でき、湘南を味わってもらえる施設で2泊を決め、あと2泊は横浜市の「こどもの国」に決め、5日間、福島の子どもたちは思いっきり遊びました。私たちは保養活動と言っていますが、資金集めに奔走し、藤沢エコネット会員からもたくさんの寄付が寄せられありがたく、感謝しています。これもエコネットがあったからこそできたことと信じています。この春で4回目となった保養活動もだいぶ慣れてきて、事故なく楽しく過ごせました。まだまだ続けなければ…と思っています。

藤沢エコネット20年のあゆみ

1994	藤沢エコネット発足 藤沢エコネットニュース発行 生ごみ堆肥化運動 大気汚染(N02)測定年2回とぜん息調査毎年実施 第1回エコネット展 講演:天谷和夫	2011	エコネットニュース200号記念号発行 200号記念レセプション「森林は地球温暖化を防げるか」木平勇吉 武田薬品竣工式に門前行動 「原発危機と計画停電」学習会 浅野泰紀(元柏崎刈羽原発) 原発学習会第2回水澤靖子/第3回館野淳 川崎健/第4回辻秀雄 市議会候補者に公開アンケート実施 ごみ有料化裁判最高裁上告-棄却 脱原発署名運動始める 原発問題要望書を市に提出-回答及び話し合い 住民協定違反の武田排水受け入れ控訴判決-棄却 「原発卒業だよ!全員集合」湘南パレード 1000人 武田薬品遺伝子組換え生物漏えい事故-安全協議会請願署名始まる
1995	石名坂焼却場のダイオキシン対策を議会陳情-採択 「一般廃棄物処理基本計画」について陳情 第2回エコネット展企画:田島征三 講演:中村悟郎	2012	市長候補者に公開アンケート実施 放射能市民自主測定始める 脱原発意見書請願署名860筆市議会で採択/号外発行 脱原発・自然エネルギー学習会 木島勲 脱原発国民投票学習会、海の放射能汚染学習会 川崎健 福島の子もたちとともに・湘南の会発足/福島っ子リフレッシュ開催 武田薬品動物実験と環境汚染、情報公開の要望署名4827筆国へ提出 武田薬品安全協議会求める請願署名2776筆市議会に提出 「原発卒業だよ!全員集合2012」湘南パレード参加600人 「シュウナウの想い」上映(ふじさわ環境フェアで)
1996	環境基本条例を考えるシンポpart1 part2開催 15団体で環境基本条例案を市議会と市長に陳情 第3回エコネット展 ハーフムーンの演奏 環境川柳	2013	「真実はどこに?」上映と福島の実況報告 吉田邦博 「311から生きる知恵 イマシン湘南まつり」に参加 ふくしまっ子リフレッシュin湘南第2回第3回開催 「武田薬品遺伝子組換え排水漏洩事故の外部監査機関の会社名の 公表と報告書の公開を求める陳情」市議会へ提出-不採択 市に設置されたPM2.5自動測定機見学会 「チェルノブイリ」の現実と福島」講演協賛 吉田由布子 「考えよう南海トラフ巨大地震と福島」学習会協賛 林弘文、岩淵孝
1997	環境基本計画市民のシンポ開催 小出川川辺の鑑定団、遠藤笹窪谷戸オオタカ学習会 ふじさわ環境ウォッチング発行	2014	「原発再稼働と海洋汚染」学習会共催 川崎健 「2014春ふくしまっ子リフレッシュin湘南&こどもの国」開催 辻堂浄化センター見学会共催 リサイクルプラザ見学会予定
1998	COP3(地球温暖化防止京都議定書)学習会 ぼかしを使った生ごみ堆肥化を市が斡旋助成 第1回ふじさわ環境フェア-98実行委参加後毎年参加		
1999	市議会候補者に公開アンケート実施 藤沢環境ウォッチング'99発行 市総合計画2020策定の意見書提出		
2000	市長候補に公開アンケート実施 「片瀬漁港と湘南海岸開発」学習会 川崎健 荏原ダイオキシン問題市民対策会議発足 ダイオキシン問題市民集会part1 part2		
2001	「横浜湘南道路と大気汚染」学習会 中山/鈴木 「センスオブワンダー」上映 「藤沢の水質」「相模湾の水」学習会環境保全課、県職員		
2002	引地川、相模湾のダイオキシン対策の県、国への要望 「藤沢ダイオキシン条例を考える」市民集会開催 アニメ「ダイオキシンの夏」上映 ニュース100号記念講演「メディアと環境」谷津孝 ダイオキシン問題市民集会part3		
2003	市議選候補者に公開アンケート実施 映画「ヒバクシャ」上映とトーク 藤沢市有機質資源再生センター計画中止の陳情		
2004	市長候補者に公開アンケート実施 「空気の汚れとアレルギー」学習会野本哲夫/青木正美 「プラスチックから溶け出すもの」学習会 片瀬隆雄		
2005	ふじさわ環境ウォッチング'05発行 巨大ごみ焼却施設エコー建設予定地見学 家庭ごみ有料化・戸別収集市民集会開催		
2006	市会議員に「ごみ有料化計画案」公開質問実施 ごみ有料化問題市民集会開催 2回 ごみ有料化反対署名40980筆で請願-不採択 ごみ有料化廃止をめざす市民集会		
2007	全市会議員にごみ有料化問題を公開質問 堆肥化センター(湘南エコセンター)見学 「藤沢ごみ有料化条例」の無効裁判提訴		
2008	市長候補に公開アンケート 「人口密集地に危険なP3レベル実験施設?」小林麻須男 武田問題対策連絡会発足 市議会へ8369筆武田薬品研究所建設見直し請願-不採択 第1回武田薬品と住民対話集会 150名		
2009	「地球温暖化防止とオバマ政権の環境政策」川崎健 武田薬品湘南研究所建設問題公害調停と署名始まる 武田薬品下水道敷設費用差止め住民訴訟提訴		
2010	ごみ有料化裁判最高裁へ上告 空気の汚れを考える西湘・三浦・湘南地域集会 武田薬品下水道敷設費用差止め住民訴訟判決棄却-控訴 「ストップ!実験動物焼却炉集会パレード」150人 武田薬品環境保全協定修正案請願-不採択 武田薬品が動物焼却炉を外注委託と発表		



大きくなれ!

美しい「アメリカ」へようこそ

藤沢9条の会主催の講演でアーサー・ピナードさん（詩人、絵本やエッセイ制作、ラジオ・テレビに出演で活躍、2012年広島文化賞受賞）のお話を聞いた。

4月26日市民会館小ホールいっぱいの観客であった。アメリカ人であるが日本語で、表現ゆたかな「こどば」をキーワードとして、いろいろな言葉のペテンを突いていた。

冒頭、飛行機に遅れそうになり急いで着いたらアナウンスに「新しい出発時刻は…」と放送、言葉がおかしい？と。その場合は「変更された時刻」と言うべきではないか？と話し、言葉の大切さを教えてくれた。

安倍首相の言っている「防衛装備移転」とは武器輸出3原則を曲げて輸出ではなく移転と表現している。

アメリカでは日本の自衛隊は「ジャパニーズ・アーミー」といっている。安倍首相やとりまく政治家の日本語で「積極的平和主義」とか巧みに暮らしも平和も言っているが、国民は騙されないようしなくてはいけない。憲法の解釈を変えて戦争に行ける国にしようとしている。集团的自衛権も、日本の若者が戦場に行き血を流せといっている。

また日米共同声明でオバマ大統領は「…支持している」と言ったが、これは「指示している…」ということだった。安倍首相は「ドレイモン」といわれている、そして「どこでも派兵ドア…」とユーモアたっぷりの話で「日本は本当に独立することです」と言いきった。

最後に1986年4月26日チェルノブイリの事故から29年目であり、新聞では安倍首相がオバマ大統領と「すしを食した…」との記事、福島原発被害がまだ収まらない中でどこにもチェルノブイリの記事はないのがおかしい、どちらが大切か？との問いかけもあり、だまされないようにしようと話した。

岩波書店「チェルノブイリ被害の全貌」ヤプロコフ著5000円の分厚い本を持参し紹介した。

藤沢9条の会は9周年を迎えた。記念講演と駅周辺までのパレードもあったが、藤沢市内の9条の会が勢揃いの壇上での紹介と、青空合唱団はひまわり園の子どもたちといっしょに歌を披露し楽しいひとときもあった。

(日々 遥)

被災地支援を続けて

杉山百合子

被災自治体……じじつのひとつづ 1

最近よく耳にする「福島の実情」などという言葉で語られる様々なこと。それも一つの事実かもしれないけど、それだけじゃない。この3年、東北に通って見聞きした体験を書かせていただくことにしました。

もちろん、それもまた、たくさんの事実の中のひとつでしかありません。できたら、「運動」としてではなく、個人で現場に立って下さい。

よく言われる、「福島では放射線量を低く知らせている」という言葉。それは、何の線量のことでですか？「モニタリングポストと個人の測定値と違う」というのはもしかしたら、測定器の違いによる誤差かもしれないし、測定条件の違いによるものかもしれません。疑問があったら教えて下さい。調べてきます。少し場所が違うだけで大きく変わることもあります。「情報がない」「話題にならない」ことはありません。

現地の新聞では毎日、県内モニタリングポストの値が掲載されています。時にはもっと詳細に、公的施設の入り口と中と、というふうにも載ることもあります。一面と社会面の多くは原発と被曝の話題が占めます。

私がよく行く公民館の壁には、前月に個人から持ち込まれた食材の測地値が掲示されています。秋はキノコが多く、半端ない数値が載っていました。それ以外は大方低いです。何より、現地では、行政の人自身が被災当事者であることをわかって下さい。

被災材1……じじつのひとつづ 2

全国で話題になった震災・津波被災材。“瓦礫”と呼ばれるそれは、処理を頼もうとした各地で激しい反対運動に遭いました。多くが水産業で生計を立てていた東北沿岸部の人たちに、この先何年も廃棄物処理だけをしていけと言うのでしょうか。震災関連死の問題が取り上げられるたび、「少くとも長引いても」と言った人に感想を伺いたいものだと思います。



実際は今年になってやっと岩手・宮城で処理が終わりました。もちろん外に出せない福島ではまだまだです。裏面に続く

反対する方に、現地を見て貰いたかった。
平地の少ない女川では、見上げるようにそびえる被災材の山脈の間を縫って道が造られました。
そこをずーっと山の方に登って行って、やっとたどりつく仮設住宅もあります。
低い土地は危険だから住めないのです。

たくさんの、自分達の暮らした街の思い出が汚れて壊れたまま積み上げられた被災材の山。
乾燥すればほこりが舞い、雨が降れば流れ、暑くなれば腐り、ハエが飛び交い。大人も子どももその間を通る暮らし。この人達の健康はどうでもいいの？
拒否される度に絶望的になったことでしょう。
この街の被災材は、町内の処理場で町の人が手作業で丁寧に分別されていました。

この女川町を描いたNHKドラマ『ラジオ』、できたらどこかで見て下さい。

つづきは次号に掲載します



放射能測定値

江の島で3月15日に市民が測ったものです

(HORIBA Radi) 単位(μSv/h)

江の島入口弁天橋	0.033
大とりい下	0.054
江島神社(弁天)	0.034
中津宮	0.028
展望灯台上	0.030
灯台下地面	0.025
龍恋の鐘(恋人岬)	0.059
サムエルコッキング苑	0.050
江の島弁天橋入口	0.048
腰越海岸	0.028

ECONET INFORMATION

水銀による海洋生物汚染の脅威

講師：川崎 健さん

5月20日(火) 14:00-15:00 鶴沼公民館

参加費：500円

主催：湘南のなぎさを守る藤沢市民の会

あれから3年

震災、原発災害克服の途を探る

飯館村酪農家・長谷川健一写真展「飯館村」

5月10日(土) 13:00- 無料 基調講演 シンポ

國學院大學渋谷キャンパス常磐松ホール

問合わせ IISORAシンポ事務局

Email: sympo@iitate-sora.net

石けんと合成洗剤の違いってな～に？

講師 小林衛さん(エスケ-石けん(株))

6月7日(土) 13:30- 明治市民センター 4階

申込み 5/31までに fax0466-81-3219へ

主催 藤沢市石けん推進協議会

藤沢エコネットから

新オープンしたリサイクルプラザ見学会

(もと桐原、北部環境事業所)と総会を行います

5月14日(水) 10:00-

湘南台駅東口に9:30集合 または現地に直接

午後、昼食・総会は円行市民の家です

会費・購読料の納入は

ゆうちょ銀行(9900) 店番(029)

当座預金 0046501 万サエコネット

(従来用紙の方法も利用できます)

会員募集=年会費・購読料→3000円

事務局会議 5月9日(金) 10:00~

湘南台推進プラザにて

《編集後記》240号記念号は簡単な8ページ。20年間本当にありがとうございました。ここまでのどり着いたのは、一重に皆様の温かいご支援、励ましがあったからです。TPPも脱原発もこれからが正念場。寄稿を歓迎します。300号に向かってGO!(A)